



# 特集

# 「気になる子ども、どうかかわる？」

「ことば」にならない声に耳を傾けて！

所員 前田 尚子

## 気になる子どもはいますか？



最近、自分の悩みや不安をうまく解消できない子どもが増えてきたのでは...と感じます。例えば、友達づくりがうまくいかずにストレスを抱えている子ども、感情のコントロールがうまくできずに情緒が不安定な子どもなど。しかし、担任が1時間の授業の中で一人の子どもにだけかかわっていくのは不可能です。

そこで、学級集団を通してかかわっていくことが必要になってきます。その一つの方法としてコラージュ（切り貼り絵）を紹介します。



## コラージュについて

アートセラピーの技法の一つで、雑誌やカタログから写真や文字などを自由に切り抜き、レイアウトを考えながら台紙に貼り付けるという、極めて簡単な方法で自己表現するものです。思いや考えはあってもうまく表現できない子どもや心を開きにくい子どもにとっては、非言語による自己表現は抵抗感が少なく、教師にとっても導入しやすいものです。

## <コラージュのよさは？>

いつでもどこでもできる。

年齢を問わずにできる。

絵を描くことに抵抗感のある子どもにも導入しやすい。

興味・関心のある雑誌であれば、より子どもの内的世界が表現されやすい。

コラージュの実践を通して - 友達に思いを伝えられずにトラブルが多かった子ども -  
小学校6年生の学級活動において、コラージュを5回実施した時の、ある子どもの作品の変容です。

A (1人で制作)

みんなはどんどん貼っていきなあ。友達のことが気になるな。



B (2人で制作)

大きいものばかり貼ったので、友達は嫌じゃなかったかな。



C (1人で制作)

幼稚園の時に遊んだことを思い出したよ。不思議な気持ち。



D (4人で制作)

友達が自分の貼りたかった場所に貼ってくれた。とても嬉しかった。



E (1人で制作)

もうすぐ小学校は卒業。中学校のことを考えると少し心配。部活動がんばりたい。



## <制作後の子どもの感想より>

話をしないで作ったので、心の中でいろいろなことを考えました。いつの間にか心の中で友達と話をしているようでした。何も話さなかったのに作った後、心の中がすっきりしました。  
「お友達をください。募集中。」(切り抜き)

5回のコラージュ制作の過程で、安心して表現できる雰囲気、何を表現しても否定されない友達との関係ができたことで、子ども自身も次第に内面の変化に気付いていったようです。

「ことば」にならない子どもの声にもっと耳を傾けていくことの大切さを実感しています。

来年度、関連講座として「気になる子どもの理解と支援(アートセラピー体験)」講座を引き続き開講する予定です。ぜひ受講してください。

# 学ぶ意欲を引き出し「話す・聞く」力を高める教材開発のアイデア

- ビデオレターでの交流を通して（小学校第4学年） -

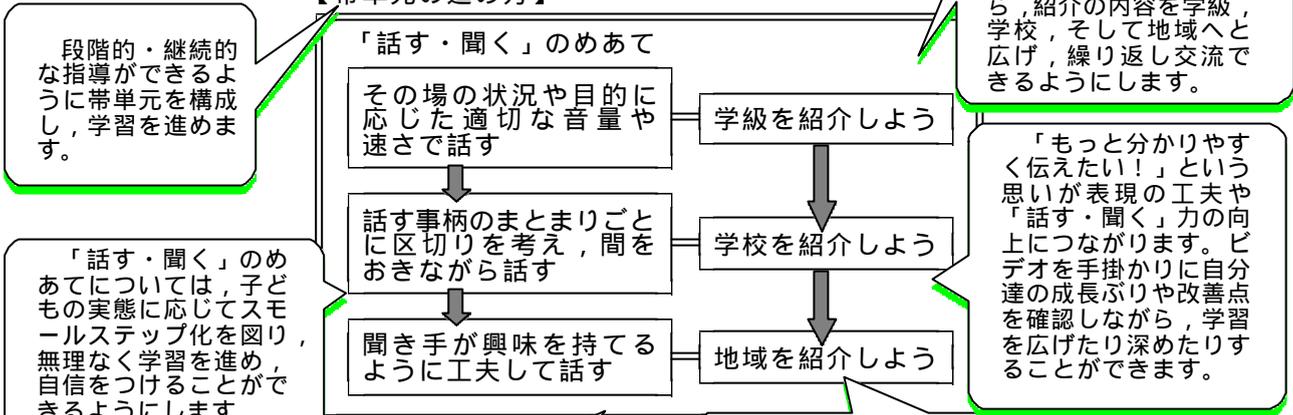
所員 原 良一

## 1 はじめに

音声言語は文字言語と違い、発した瞬間から消えてしまいます。そのため児童にとっては、自ら発した音声言語を振り返り、よさや改善点を見出すことが難しいといった状況が生じてきます。そこで、本稿では、ビデオレターを使って他校の児童と交流する活動を通して、「話す・聞く」力を高めるアイデアを紹介します。

## 2 指導の実際

### 【帯単元の進め方】



ビデオを活用することで、聴覚だけでなく、視覚に訴える表現方法も意識させることができます。



【学級の一輪車名人紹介】



【平和祈念像の紹介】

紹介する内容や方法話し合っスピーチメモを作成する場面では、右のような「学習の手引き」を準備します。2グループずつがペアになって練習の成果を見せ合い相互にアドバイスする場面では、どの児童も意見が言えるように気付きをメモしておくための「聞き取りカード」や、司会者のための「話し合いマニュアル」を用意しておきます。また、ビデオをもとに自分達の表現について、振り返ることができる場を設定します。

このような手立てをとることで、児童は意欲をもって主体的に学習に取り組み、自己評価能力を高めていくことができます。

## 3 終わりに

ビデオレターを使った交流活動を通して、学ぶ意欲を引き出し、「話す・聞く」力を高めていくことができます。来年度、「基礎・基本を身に付け意欲的に学ぶ児童を育てる小学校国語科」講座を実施する予定です。ぜひ受講してください。

### 【「地域を紹介しよう」の学習の手引き】

何を（話題選び）	どのように（表現の仕方）	取材・調査の方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>「あつと思わせる話や例」</li> <li>「相手とのつながり・違い」</li> <li>人物、団体</li> <li>地域のために働いた人</li> <li>地域出身の有名人</li> <li>歴史（昔のこと、今のこと）</li> <li>土地の様子、自然・気候の様子</li> <li>交通の特色</li> <li>産業の特色</li> <li>名物、特産物</li> <li>建物、施設（中にあるもの）</li> <li>行事、生活</li> <li>お祭り</li> <li>普段の生活での違い</li> <li>その他</li> <li>プロフィール</li> <li>名前やマークの意味・由来</li> <li>特別なイベント</li> <li>地域のキヤッチコピー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチ</li> <li>分担して</li> <li>インタビュ形式で</li> <li>インタビュ、実演</li> <li>（実際に登場してもらおう）</li> <li>（自分達が登場し、歌ったり踊ったりして伝える）</li> <li>全体を物語風（劇など）にする</li> <li>クイズ形式にする</li> <li>身振り・手振りで表現する</li> <li>絵、図、表、グラフなどを作る</li> <li>（棒で指し示す、目かくし）</li> <li>実物（写真）を見せる</li> <li>様子を見せる（ビデオ、劇）</li> <li>楽器・カセットテープの利用</li> <li>話し方の工夫</li> <li>声の大きさ・速さ・間の工夫</li> <li>話し始めの工夫（問いかけ）</li> <li>言葉選び・順序の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えを出し合う</li> <li>インタビュ</li> <li>（本人へ直接）</li> <li>（周りの人に）</li> <li>詳しい人に尋ねる</li> <li>（インタビュ調査）</li> <li>資料を探す</li> <li>（本・パンフレットなど）</li> <li>実際にその場に行き調べる</li> <li>アンケート調査</li> <li>インターネット</li> <li>（ホームページ）</li> </ul>

# 身近な自然現象に触れ、生徒の瞳が輝く理科授業のアイデア

- 第1分野「光の性質」 -

所員 豊田 博司

光はとても身近な現象ですが、生徒はそれをあまり気に留めることがなく、不思議さを感じることも少ないようです。そこで、たくさんの現象に触れることで、身近な自然に目を向ける機会を設定することが必要だと考えました。

## 1 身近な現象に触れる実験を取り入れた授業

単元の導入として、日常生活の中にある身近な現象に触れることができるように、次のような実験を行ってみたいと思います。

光の三原色	フラスコレンズ	人工虹	プリズム	浮かぶ10円玉	万華鏡
スプーン鏡	水で曲がる光	鏡の不思議			

<学習の流れとポイント>

- ・ 9つの実験機を準備する。
- ・ 各机には1種類の実験装置を用意しておく。
- ・ 1つのグループは3～4人。
- ・ 各々の実験には簡単な説明書を用意しておく。
- ・ 1つの実験を5分間で行い、時間になると次の実験を行う。
- ・ 6種類の実験を行ったら、実験の感想や気づきをまとめる。
- ・ 各グループより興味をもった実験について発表する。

6種類の実験を行うことで、生徒は他のグループの発表を真剣に聞いていました。さらに、残りの実験を自主的に放課後などを利用して行っていました。

その後の授業においては、これらの実験との関連を図っていくことで、生徒は意欲的に学習することができました。

## 2 実験の具体例 - 人工虹 -

<実験装置の作り方>

### \*人工虹シート

黒色の画用紙にスプレーのりを吹きかけて、虹ビーズ（又はガラスビーズで直径0.2mm前後のもの。理科教材の取扱店で2千円程度で手に入る）を薄く均等に貼り付ける。

### \*虹ボックス

人工虹シートを数枚用意し、段ボールの内側に貼り付ける。

<実験説明書より>

### 人工虹シート

- 1 人工虹シートに横から光を当てよう。  
いろいろな角度から見てみよう。どのように見えますか？



### 人工虹

- 2 虹ボックスの中であらゆる炎をともします。どのように見えますか？



生徒用の説明書では図で表現しています。

生徒は自然現象の虹と重ねて考え、興味・関心が高まり、意欲的に活動していました。身近で不思議な現象に触れさせ、「なぜ」「どうして」という素朴な疑問をもてるようにすることが大切です。そのためには、身近な現象を生徒と一緒に楽しむ工夫が必要です。

来年度「目的意識を高める中学校理科授業・野外観察」講座を実施する予定です。ぜひ受講してください。

生徒のワークシートから

ろうそくに火をつけたら、シャボン玉のように丸く見えた。虹シートに光を当てると、虹の七色が見えた。見える所と見えない所があった。

ろうそくの周りの虹には立体感があった。見える位置と見えない位置があるのはなぜかなあ？

## Webコンテンツの教科指導への活用

- 教科「農業」におけるWebコンテンツの作成と活用を例として -

所員 久富

光祐

### 1 はじめに

食品製造分野の学習において、専門的な知識の習得や理解を深め、実技や実習といった体験的な学習をより効果的に進めるための学習支援教材を作成しました。ここで、教材の一部とその活用について、紹介します。

### 2 Webコンテンツの作成と活用

#### メリット1

クイズ形式で主体的に学習できる。

#### メリット2

マニュアルがあるので操作が簡単。

The screenshot shows a colorful web menu titled 「食品製造」の学習. It features an INDEX sidebar on the left and a main MENU area with three columns of content. The first column lists '1 食品製造の意義と動向' with sub-points on purpose, necessity, characteristics, and trends. The second column lists '2 食品の変質と貯蔵法' with sub-points on spoilage and storage methods. The third column lists '3 穀類・大豆いも類の加工' with sub-points on bread, biscuits, and soy products. Other columns include '4 果実類・野菜類の加工', '5 醸造食品の製造', '6 牛乳の加工', '7 肉・鶏卵の加工', '8 冷凍・乾燥食品の製造', and '9 食品製造の衛生管理'.

#### メリット3

厳選されたリンク集で、広く深く学習できる。

#### メリット4

テスト問題で評価もバッチリ。

### 3 Webコンテンツを授業で活用する際の利点

座学の中で、視覚的・疑似体験的に学習内容を理解させることに活用できます。

実験や実習の中で、系統的な理解を助けることに活用できます。

授業以外において、生徒が自主的・主体的に学習する手がかりになります。

### 4 Webコンテンツ作成に役立つ来年度のセンター講座（予定）

- ・「Paint Shop Pro を使った画像処理による教材作成」
- ・「初めてのホームページ作成」
- ・「ビデオの編集とそれを取り込んだ Web 教材作成」
- ・「Power Point のよさを生かした教材作成」

### 5 終わりに

詳細は、「平成14年度 佐賀県教育センター研究紀要第27集別冊 個別研究」を参照してください。

# 東から西から我が校の自慢

## 唐津市立大成小学校 - 地域の豊かな自然を生かした教育活動 -

大成小学校は、「唐津くんち」で曳山が集まる「お旅所」として有名である。西の浜と隣接しているためであろうか、街の中心にありながらも、おだやかな印象を受ける。この学校では、西の浜をはじめとする豊かな自然を取り入れた教育活動が盛んに行われている。

まず、朝の体育「浜走り」。月に一度、学校に隣接する砂浜を全校児童が走る。息を切らして走った後には、砂浜の清掃活動が始まる。児童は走ったりゴミを拾ったりしながら、潮風の香りや波音に季節を感じ、砂浜の感触を味わっている。砂浜を生かした活動が、砂浜への愛着を生む。そして、大好きな砂浜だからこそ、美しく保ちたいという思いにつながっていく。走った後の清掃活動が、児童にとってごく当たり前の活動として定着していることも頷ける。

次に「海辺の集会」。毎年6月に砂浜で全校集会を行っている。今年度は近くの志道小学校との交流を兼ねて行われた。メインは砂の彫刻コンテスト。児童は、砂山の高さを競ったり、デザインを競ったりしながら、自然とかがわる心地よさや共同で取り組む楽しさを体感している。

その他にも、砂浜に流れ着いた漂流物のルーツをさぐることによって国際理解のきっかけとしたり、松原を歩き気付いたことを基に環境教育へと発展させたり、地域の自然を生かした様々な教育活動の実績を持つ。

かつては県内有数の大規模校だったこの学校も児童数が減少し、平成16年度からは志道小学校と一つになり、「大志小学校」として再スタートすることになっている。



## 佐賀市立城北中学校 - 地域で学ぶ・地域に学ぶ・地域と学ぶ学校 -

平成15年7月に新校舎が完成した城北中学校は、生涯学習の拠点としても利用することのできる21世紀の学校づくりを目指している。

この学校の一日は、全校一斉15分間の朝読書から始まる。昨年度から月に1～2回、ボランティアの方々の読み語りの時間を設定することで、地域との交流も深まってきた。現在は、生徒自らが出身小学校へ読み語りに行くという取組へと発展している。集団文庫の本を多数購入するなど、読書活動の面でのPTAの支援も活発で、蔵書も充実してきた。このような取組が認められ、平成14年度には文部科学省より読書推進の表彰を受けた。



「総合的な学習の時間」においては、『地域の人から学ぶ授業』を推進するために、地域の方をゲストティーチャーとして招き、指導をお願いしている。

「選択教科」においては、『地域の人と共に学ぶ授業』を目指し、技術・社会の2教科では地域の方々も生徒として参加してもらった。地域の方々との交流は、地域に対する理解が深まると共に、違う世代との学習ということもあって生徒も刺激を受け、学習効果も高まっている。

また、各学期に1回、1週間にわたって学校の教育活動を公開するロングラン学校公開を実施している。

このように、日常的に地域とかがわりながら学ぶ時間を設けることで、生徒の中にも地域の一員としての自覚が生まれ、一人一人が生き生きとした学校生活を送っている。

## 佐賀県立鹿島高等学校 - 総合的な学習の時間による「赤門学」の実践 -

鹿島高等学校は、旧鹿島鍋島藩の城内にある、創立108周年目を迎える全日制普通科高等学校である。生徒数674名の進学校であり、平成14年度は、国公立大学に110名余り、私立大学に160名余りの合格者を出している。

当校は、校訓『至誠・自律・創造』の下に「赤門学」(「赤門」とは、佐賀県重要文化財である当校の校門)を掲げ、「将来への設計図を描く」「自ら学び、挑戦する」「人としての生き方を身に付ける」を指導理念の3つの柱としている。

この中の「将来への設計図を描く」では、総合的な学習の時間も活用して進路を啓発している。昨年度は、1年生では「先輩に学ぶ」、2年生では「佐賀大学ジョイントセミナー」、3年生では「大学別講演会」が主に実施された。1年生では、自分の進路志望や関心に基づき、先輩の職場への訪問を中心に学習した。2年生では、大学から講義資料を取り寄せたり、保護者と一緒に資料を探したりするなど、進路について様々な方法で研究した。3年生では将来の夢を実現するために、より実践的な活動が行われた。なお、これらの研究の成果については、発表の機会を与えるなどして、生徒が達成感を味わえるよう工夫している。

このような実践を通して、生徒は目的意識がより高まり、将来への設計図をより明確に描くことができるようになってきた。「未来を切り拓いていく意志と能力をもつ、心身共に健康な生徒」が育っているようである。

今後、これらの活動を基に、さらに実績を積み重ねていくことであろう。



「先輩に学ぶ」活動の様子

### SAGA再発見

## 一草の家の住人「カヤネズミ」

所員 鶴田 靖雄

みなさんは「カヤネズミ」という動物を御存じでしょうか？ハツカネズミやドブネズミなどの人家の中やその周辺に出没するネズミなら知っているけれど...と思われる方が多いのではないのでしょうか。カヤネズミ *Micromys minutus* (Pallas, 1771)は、げっ歯目(ネズミ目)・ネズミ科に属し、頭胴長(頭から尾の付け根までの長さ)が5～7cm、尾長が5～8cm程度の世界で最小のネズミです(写真1)。毎年、春と秋の繁殖期になると、ススキ(カヤ)やオギなどのイネ科植物の葉を巧みに編み込んで、直径10cm程度の球状の巣(写真2)を作り、その中で出産、育児を行います。したがって、主な生息場所はイネ科植物が群生している河川敷、水田、沼沢地などに限られます。カヤネズミの生体を見付けることはなかなか難しいのですが、巣であれば10～11月頃に除草作業が行われた後の河川敷を調べてみると発見することができます。

このカヤネズミも他の動植物と同様に、河川の改修工事や圃場整備、各種開発工事などで、その生息域が減少しつつあるようです。佐賀県のレッドデータブックでは「情報不足種」に分類されていますが、「絶滅危惧種」や「準絶滅危惧種」に分類してある県もあります。カヤネズミがいつまでも暮らしていけるような環境の維持を考えていかなければならないと思います。



写真1



写真2



写真3

## インフォメーション

# “ EDU-QUAKEさが ” システムが新しくなります！！

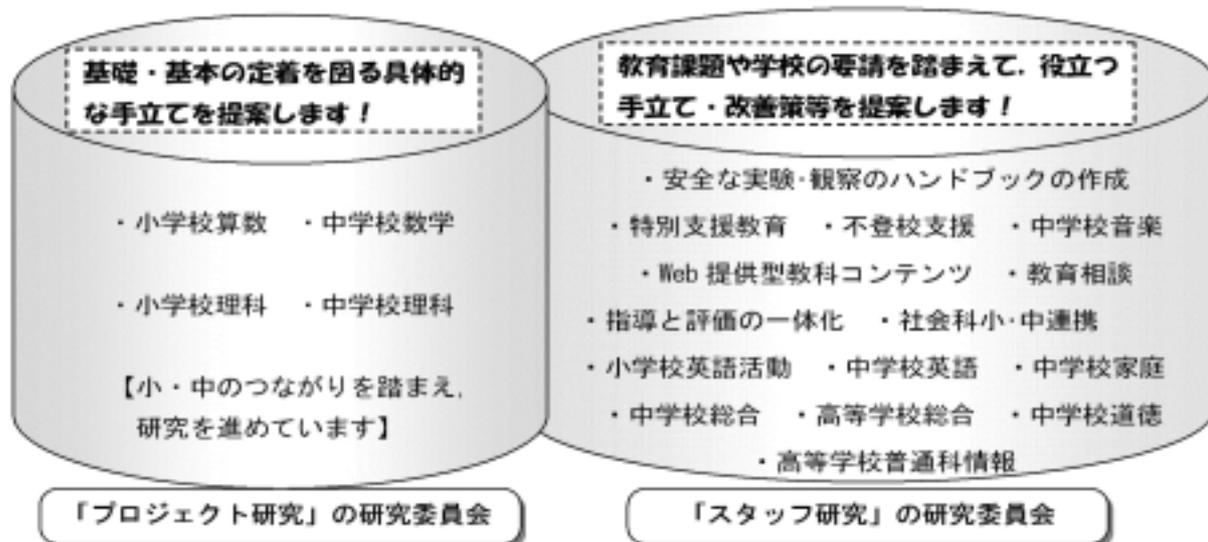
教育センターの“EDU-QUAKEさが”が、インターネットの高速・大容量化に対応するため、来年4月から新しくなります。なお、不明な点は、教育センター情報教育係へお尋ねください。

- 1 使用開始 .....平成16年4月（サーバーなど設置場所は、佐賀市内になる予定）
- 2 サポート .....管理・保守は専門業者、運用は教育センター
- 3 各学校からのアクセス回線 ...現在のダイヤルアップに加えて光ファイバー、ADSL、CATV等の回線に対応予定
- 4 説明会 .....各学校・教育委員会の担当者に対して、平成16年2月17日(火)開催予定

<平成15年度研究調査事業>

「プロジェクト研究」「スタッフ研究」の各研究委員会が、役立つ情報を発信します！

—詳しい情報は、教育センターのホームページをご覧ください—



研究委員の所属する学校や研究協力校との連携を深め、実践的研究を通して改善策を提案します。

## 平成15年度 教育講演会

演題：「父性の復権 - 教育における父性の役割 -」

講師：林 道義(東京女子大学教授)

- 1 期日 平成15年11月13日(木)
- 2 時間 14:00 ~ 16:00
- 3 場所 佐賀市文化会館中ホール



講師から一言

学級崩壊ほどでなくても、教室の中の秩序が保てない事態が頻発している。それに対する対策として「指導より支援」とか「カウンセリング・マインド」が上から指導されてきた。しかしそれは母性的な対応であり、それだけでは生徒への対応としては不十分である。教師には、適切に叱ったり、指導する父性的な能力もまた要求されている。教育の中に父性を復活させることについて共に考えてみたい。

## 教育論文・マルチメディア教材募集

県内公立学校の先生方から、校内研究や個人又はグループによる教育論文・マルチメディア教材を募集します。

あなたも、応募してみませんか？お待ちしております。

- 1 募集・表彰  
募集期間 平成15年11月17日～11月25日  
表彰 教育実践交流会において表彰します。
- 2 教育実践交流会  
開催日 平成16年2月19日(木)  
内容 分科会ごとに発表・協議を行います。

編集・発行 佐賀県教育センター

〒840-0214 佐賀県佐賀郡大和町大字川上字西山  
TEL 0952-62-5211 FAX 0952-62-6404  
ホームページ <http://www.saga-ed.go.jp/>